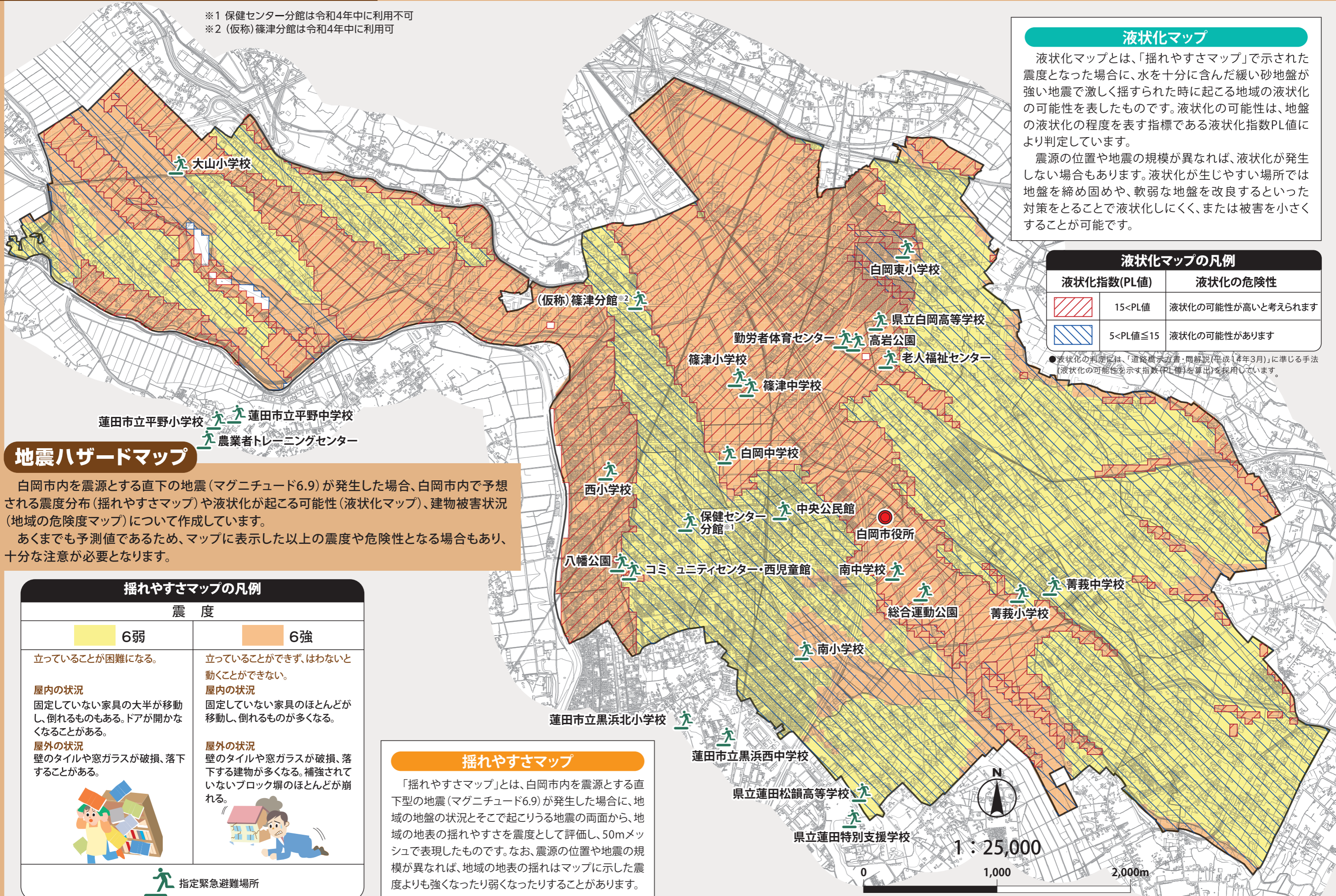


# 揺れやすさ・液状化マップ

※1 保健センター分館は令和4年中に利用不可  
 ※2 (仮称)篠津分館は令和4年中に利用可



## 液状化マップ

液状化マップとは、「揺れやすさマップ」で示された震度となった場合に、水を十分に含んだ緩い砂地盤が強い地震で激しく揺すられた時に起こる地域の液状化の可能性を表したものです。液状化の可能性は、地盤の液状化の程度を表す指標である液状化指数PL値により判定しています。

震源の位置や地震の規模が異なれば、液状化が発生しない場合もあります。液状化が生じやすい場所では地盤を締め固めや、軟弱な地盤を改良するといった対策をとることで液状化しにくく、または被害を小さくすることが可能です。

## 液状化マップの凡例

液状化指数(PL値)	液状化の危険性
15<PL値	液状化の可能性が高いと考えられます
5<PL値≦15	液状化の可能性がります

●液状化の判定は、「道路橋示方書・同解説(平成14年3月)」に準じる手法(液状化の可能性を示す指数(PL値)を算出)を採用しています。

## 地震ハザードマップ

白岡市内を震源とする直下の地震(マグニチュード6.9)が発生した場合、白岡市内で予想される震度分布(揺れやすさマップ)や液状化が起こる可能性(液状化マップ)、建物被害状況(地域の危険度マップ)について作成しています。

あくまでも予測値であるため、マップに表示した以上の震度や危険性となる場合もあり、十分な注意が必要となります。

## 揺れやすさマップの凡例

震度	
6弱	6強
立っていることが困難になる。 屋内の状況 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることもある。 屋外の状況 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。	立っていることができず、はわないと動くことができない。 屋内の状況 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。 屋外の状況 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が増える。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。
指定緊急避難場所	

## 揺れやすさマップ

「揺れやすさマップ」とは、白岡市内を震源とする直下型の地震(マグニチュード6.9)が発生した場合に、地域の地盤の状況とそこで起こりうる地震の両面から、地域の地表の揺れやすさを震度として評価し、50mメッシュで表現したものです。なお、震源の位置や地震の規模が異なれば、地域の地表の揺れはマップに示した震度よりも強くなったり弱くなったりすることがあります。

1:25,000

0 1,000 2,000m